

Cisco XDRでのDevice InsightsとMeraki統合のトラブルシューティング

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco XDRで統合を設定し、Device InsightsとMerakiの統合をトラブルシューティングする手順について説明します。

前提条件

要件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

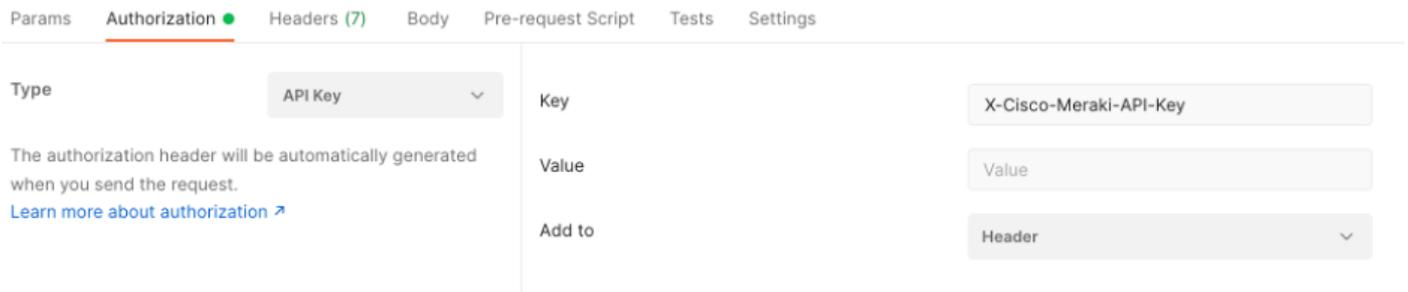
背景説明

Cisco XDR Device Insightsは、統合されたデータソースのインベントリを統合する組織内のデバイスの統合ビューを提供します。設定の詳細については、[SecureXの統合モジュールの詳細](#)を参照してください。

トラブルシューティング

接続の確認

- Merakiは認可方式としてAPIキーを使用します。キーはX-Cisco-Meraki-API-Keyで、値はMeraki SMダッシュボードから取得します。Postmanを使用して接続をテストできます。



The screenshot shows the Postman interface with the 'Authorization' tab selected. The 'Type' is set to 'API Key'. The 'Key' field contains 'X-Cisco-Meraki-API-Key'. The 'Value' field is empty. The 'Add to' dropdown is set to 'Header'. A note states: 'The authorization header will be automatically generated when you send the request. Learn more about authorization >'. The top navigation bar includes 'Params', 'Authorization', 'Headers (7)', 'Body', 'Pre-request Script', 'Tests', and 'Settings'.

基本的なMerakiコールを使用してSMエンドポイントを取得します：<https://api-mp.meraki.com/api/v1/networks/<SM network IS>/sm/devices>。

Meraki APIのページネーションに関する[ドキュメント](#)

間違ったネットワークID

- ネットワークIDフィールドでN_プレフィクスが使用されていることを確認します。
- N_が正しいプレフィクスではない可能性があるため、これを使用してAPIが正しいプレフィクスを取得できるようにしてください。

「Un-managed」と表示されるデバイス

- 管理対象とは、MDMによって管理されていることを意味します。デバイスが管理対象外として表示される場合、WindowsデバイスをAccessの職場または学校に追加し、エージェントをインストールする必要があります。
- MacOSには、管理プロファイルとエージェントがインストールされている必要があります。

Device InsightsとMerakiの統合でも問題が解決しない場合は、記事を参照してブラウザからHARログを収集し、TACサポートに連絡して、より詳細な分析を実行してください。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。